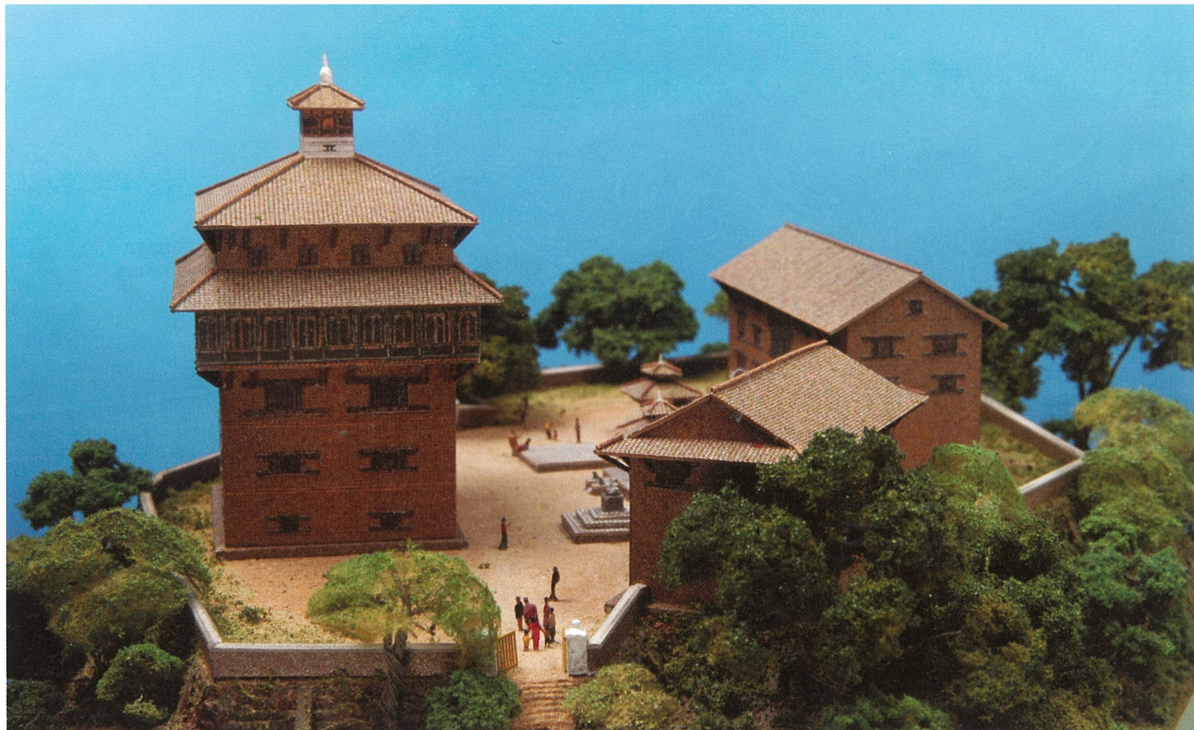


みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

サーッタレ・ダルバール王宮
(変わるネパールと変わらぬネパール：
グローバル化した世界に暮らす, 第22回)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 南, 真木人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5121



「サーッタレ・ダルパール王宮」 バール・ラワット／柴田美智子作 2001年（撮影：田上仁志）

変わるネパールと変わらぬネパール

——グローバル化した世界に暮らす——

第22回

サーッタレ・ダルパール（7層の王宮）は、カトマンズの北西約30キロメートルにあるヌワコットの王宮である。外国人が訪れるような観光スポットではない。だが、ここはゴルカと並んでネパールの歴史上重要な土地だ。ゴルカで興った現国王の先祖シャハ（別名ゴルカ）王朝は、1744年にヌワコットを攻撃して占領。それまでの王宮とは別に、サーッタレ・ダルパールを築いた。さらに1769年、そこを拠点としてカトマンズ盆地に攻めこみ、マッラ王朝を倒してネパール全土の統一に成功した。

当時のヌワコットはカトマンズとチベットを結ぶ交易ルートの要衝にあった。シャハ王朝はそこを支配して交通と関税を掌握し、マッラ王朝の経済的な基盤を揺るがせることで征服へと至った。つまり、現在のギャネンドラ・シャハ国王にとってヌワコットは、シャハ王家が今日まで続く繁栄を約束された特別の土地なのだ。

ところで、もうお気づきのことと思うが、この写真は実物ではなく、縮尺300分の1の精巧な模型を撮影したものだ。大きく見えるが模型は、両手の手のひらにのるA4大で、人がわずか0.5～0.6ミリメートルの人形で表わされている。私が勤める「みんぱく」では1994年以来、JICA（ジャイカ＝国際協力機構）の博物館学研修コースと

して世界各地の博物館職員を受け入れてきた。模型はその一環として、模型製作実習を選択した研修員が「景観模型工房」のプロによる指導とサポートを受けて作ったものである。これまでに世界23か国（地域）の39人が、37点の建物や景観の模型を完成させた。その中には万里の長城、タキシラの仏教遺跡、セレンゲティ国立公園など世界遺産に登録された景観から、この世にはない伝説の滝までがあり、さながらミニチュアの世界ツアーが楽しめる。

模型はふつうでは見えないものを可視化し、イメージを喚起する不思議な魅力をもつ。おそらくこの写真も模型と知って、これまでの連載の写真以上に注意深く見ていただけたのではないだろうか。みんぱくでは、10月13日から来年の2月28日まで「模型で世界旅行—いろんな国の〈私の風景〉」と題した企画展を開催する。実はこれは、数年前はじめてサーッタレ・ダルパールの模型を見て感嘆したのをきっかけに私が企画した小さな展覧会である。常設展の観覧料でご覧いただけるので、足をお運びいただければ幸いである。

サーッタレ・ダルパール王宮

写真・文◎国立民族学博物館助教授 南 真木人

1961年、札幌生まれ。筑波大学大学院修了。専門は文化人類学、南アジア研究。主要共著／「〈都市的なもの〉の現在」（東大出版会 2004年）、「嗜好品の文化人類学」（講談社 2004年）、「エスノ・サイエンス」（京大出版会 2002年）など。